

国内初、スマート精密林業を公開

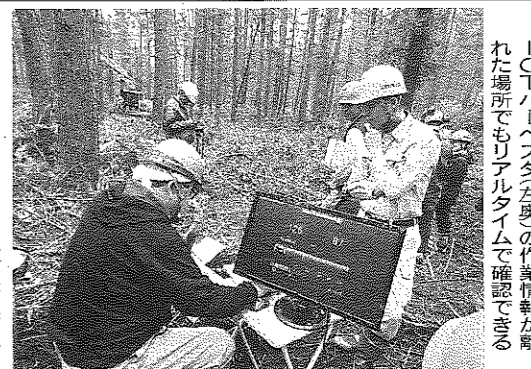
木材サプライチェーン構築へ

信大など共同事業体

「レーザーセンシング情報を使用した持続的なスマート精密林業技術」の現地検討会が10日、長野県山ノ内町で開かれた。最先端の各種レーザー計測による精密計測とIoT機能付き高性能ハーベスタ(国内初の実証試験)による収穫作業をつなぐことで、林業界初の森林の単木在庫管理からレーザー計測による適切な樹木の選木システムを公開した。

この技術は信州大学 加藤正人信大工学部を中核とする産学官の共同事業体で開発を進めており、ICT技術を活用した林業のプロトタイプ(長野モデル)が近く完成予定だ。研究概要は、航空機管理系(中信森林管理署)、長野県森林組合連合会、コマツが参加している。研究代表は

れた事務所や木材センタリ、製材工場などリアルタイムで共有することで、川上・川中・川下の木材流通のサプライチェーンを構築し、生産現場での省力化と林業の成長産業化に貢献する。



ICTハーベスタ左奥の作業情報が離れた場所でもリアルタイムで確認できる

「見える化」をはじめ、産地地の起伏などまで分かる断面図など、これまでにない新しい技術を取り入れるように見据えている。

情報を整備し、デジタル処理した山林情報をICT技術を活用して素材生産に生かしていく。単木の在庫管理を可能にするほか、伐採した素材の径級や長さ、材積、曲がり等のデータをクラウド経由で離

「見える化」をはじめ、産地地の起伏などまで分かる断面図など、これまでにない新しい技術を取り入れるように見据えている。加藤教授は「これまでの林業では考えられなかった全く新しい画期的なシステムであり、全国に普及していきたい」と話している。

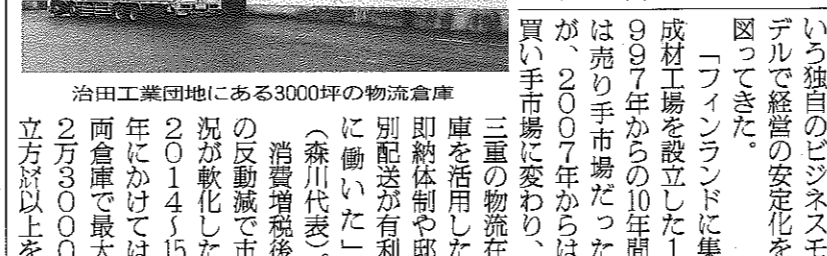
三重の物流倉庫を集約

市場変化見据え、国内事業の再構築へ

FLT

フィンランドの日本向け集成平角の供給大手であるフィンランド・ラミネーティッド・ティンバー(FLT、森川正文代表)は三重県伊賀市の2つの物流倉庫のうち、営業本部のある四十九町の倉庫を手放し、治田工業団地の巨大倉庫に物流拠点を集約する。従来は2つの倉庫で在庫調整を図ってきたが、品不足の現状では先物販売が主流となり、在庫が貯まらない状況が続いている。将来的に新設住宅着工が減少すれば国内の事業量も縮小すると判断した。パンドル及び邸別販売は維持しながら不動産を活用した新規事業を検討し、将来的な市場変化に柔軟に対応できる体制を整備する。

集約に伴って営業特化した集成平角の供給本部(FLT三重)を給大手で、週6日3シフトで月間8000立方メートルを生産する。樹種比率はWウッド7割、Rウッド3割。定尺ラミナを安定的に供給するIISALMAN



治田工業団地にある3000坪の物流倉庫

SAHAT OY社(年間製材能力25万立方メートル)を傘下に持ち、伐採から末端物流まで完結させ、常時フル生産でコスト競争力を高めることも、国内の物流倉庫で市況に合わせた供給を調整すると

「見える化」をはじめ、産地地の起伏などまで分かる断面図など、これまでにない新しい技術を取り入れるように見据えている。加藤教授は「これまでの林業では考えられなかった全く新しい画期的なシステムであり、全国に普及していきたい」と話している。

「見える化」をはじめ、産地地の起伏などまで分かる断面図など、これまでにない新しい技術を取り入れるように見据えている。加藤教授は「これまでの林業では考えられなかった全く新しい画期的なシステムであり、全国に普及していきたい」と話している。

から自動選木した間伐木をICTハーベスタで伐倒・玉伐り、本数・材積を瞬時に集計する一連の流れを見学した。参加者は計測データを基にした樹木情報や産地の

「見える化」をはじめ、産地地の起伏などまで分かる断面図など、これまでにない新しい技術を取り入れるように見据えている。加藤教授は「これまでの林業では考えられなかった全く新しい画期的なシステムであり、全国に普及していきたい」と話している。

「見える化」をはじめ、産地地の起伏などまで分かる断面図など、これまでにない新しい技術を取り入れるように見据えている。加藤教授は「これまでの林業では考えられなかった全く新しい画期的なシステムであり、全国に普及していきたい」と話している。

アセチル化木材 アコヤ

在庫豊富 加工も承ります

(株)もくもくサンワ

千葉県浦安市千鳥13
(東京中央木材市場内 担当:長谷)

TEL 047-355-2111
FAX 047-355-2316

木にはオスモカラー

osmo .in form und farbe

ISO9001・ISO14001取得

任意寸法の筋違の評価が可能に

インテグラル (茨城県つくば市、柳澤泰男社長は、「ホームズ君へ耐震診断プロフェッショナル」210をリリースする。保有水平耐力オプションでは大橋好光東京都市大学教授の指導の下、独自の任意寸法の筋違の骨格曲線算出機能を開発、学校などで

インテグラルの耐震診断にも活用できるものとしていく。今回のバージョンアップでは日本建築防災協会が5月に発表した「新耐震基準の木造住宅の耐震性能検証法」に対応したモードを追加。住まい手が住宅の画像などを提供することで簡単に耐震性を検証する手法で、1981年以降の新耐震基準の木造住宅でも耐震性能に課題があることを知らせていく。

その他、平面図分割印刷機能と筋違記号の表示位置設定機能を追加。筋違の向きを画面で表示できるようにする。

また、保有水平耐力計算オプションとして「柔床」建築物の計算方法の精緻化と任意寸法筋違の骨格曲線算出機能を追加する。この機能は非住宅などの大きな筋違を用いている物件の耐震性を評価できるもので、同社独自の機能。耐震診断基準書の改訂委員である大橋教授の指導の下、開発した。同社は「学校後さらに新規事業を組み合わせる事業展開を計画している。」と話している。